

漆芸美術館だより

83
2018.5.21

展覧会紹介:漆芸の未来を拓く—生新の時2018—	2
展覧会紹介:東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 近代工芸のススメ	3
漆の小箱23 御所車蒔絵小篋筒—逆境を耐えた志とわざ—	4
平成29年度寄贈作品紹介、平成30年度友の会会員募集のお知らせ 他	5
INFORMATION	6



中村美緒《乾漆海洋生物箱》広島市立大学卒業

漆芸の未来を拓く―生新の時2018―

会期 5月19日(土)～7月16日(月・祝) *会期中無休

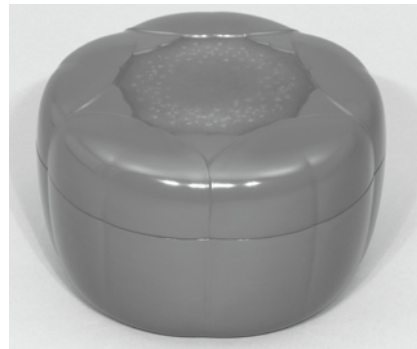
大学や大学院で漆工芸を学び、今春卒業
および修了した皆さんの漆芸作品を展示す
る本展覧会は、2008年度に始まり今年
で11回目を迎えました。瑞々しく若い感性
の作品群は私たちに新鮮な驚きと発見をも
たらしてくれまます。緻密に造りこまれたも
のから壮大で迫力のあるものまで多彩な作
品34点が出品されます。今回は出品作の中
から3点をご紹介します。

「乾漆海洋生物箱」は漆の艶と透明感を活
かして、イカの皮膚のつやつや、ぬるぬる
した質感と奥から浮き出てくるような模様
が表現されています。胴体の上部は取り外



乾漆海洋生物箱
中村美緒
広島市立大学卒業

せるようになっていて、箱状に仕上げても
ります。造形表現だけではなく実用性にも
こだわった作品です。



乾漆蒔絵食籠「寒椿」
内田千月
富山大学大学院修了

乾漆蒔絵食籠「寒椿」は雪の中で凜とし
た雰囲気です。花弁の重なりや細部の造形からは作者の
丁寧な手仕事がかがえます。計算された
造形美と鮮やかな朱色の色彩が華やかな気
持ちにさせてくれます。

人体から型をとり、乾漆で成形した「対
話の痕跡」は「かぶれる」という漆の特徴
に着目した作品です。一般的に敬遠されが

ちな「漆かぶれ」も漆の魅力の一つと捉え、
その現象に注目し、感じるきつかけになっ
てほしいという作者の想いが込められてい
ます。かぶれの印象を表すために変塗で様々
な表情に仕上げられています。



対話の痕跡
松浦悠子
金沢美術工芸大学卒業

会場にはこの他にも豊かな感性に満ちた
作品が揃います。また、左記の通り開催さ
れるギャラリートーク及びシンポジウムで
は、出品者の制作に対する思いについて意
見交換を行います。この機会にぜひご来館
ください。
(山内亜沙美)

6月9日(土)*当日は無料開放
ギャラリートーク 13時30分～14時30分
シンポジウム 14時40分～16時30分
テーマ「漆芸の魅力伝える」
コーディネーター

水上修氏(沖縄県立芸術大学教授)



白地黒絵魚文扁壺
石黒宗磨 1940-41年頃

本展は、2020年に予定されている東京国立近代美術館工芸館の石川県金沢市への移転に先立ち、近・現代の優れた工芸品を多くの方々にご覧いただくものです。東京国立近代美術館工芸館の収蔵品から、重要無形文化財保持者・日本芸術院会員・文化勲章受章者の作品27点を含む46作品をご紹介します。

第一部（展示室1・2）では、明治期から戦後までの漆芸を中心に、陶磁、金工、木工、人形、ガラス、染織の多彩な作品35点を一堂に展示いたします。磯矢阿伎良、黒田辰秋、高橋節郎らの漆芸作品、富本憲吉、浜田庄司・中村錦平らの陶磁作品の他、芹

東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 近代工芸のスズメ

会期 7月21日(土)～9月3日(月) *会期中無休

沢銈介「紬地型絵染二曲屏風 四季」や岩田藤七「鉢」など、漆芸以外の作品もお楽しみください。



長生の器
松田権六 1940年
いずれも東京国立近代美術館蔵
撮影：アローアートワークス

第二部（展示室3）では、当館の所蔵品14点も交えて、松田権六や寺井直次、前大峰など石川県にゆかりのある漆芸作家の作品25点をご紹介します。

会期中にはギャラリートークやセミナーなど様々な関連イベントを開催予定です。親子でお楽しみいただけるワークショップもごさいますので、この機会にぜひ展示室やイベントで、工芸の魅力を体感してください。

(河原法子)

【展覧会関連イベントのご案内】

○オープニング・ギャラリートーク
日時：7月21日(土)

会場：当館展示室

*入館券が必要です。

*詳細はHPをご覧ください。

○漆文化セミナー

日時：8月19日(日)

13時30分～15時予定

講師：谷口 出氏

(石川県立美術館学芸主任兼課長)

会場：当館講義室

*入場無料・予約不要

○ワークショップ 沈金着色付体験

7月28日(土) 13時～16時

7月29日(日) 10時～13時

8月18日(土) 13時～16時

8月19日(日) 10時～13時

会場：当館エントランスホール

料金：800円

○職人による実演

8月2日(木) 9時～17時

会場：当館エントランスホール

漆の小箱 23

御所車蒔絵小箆筒—逆境を耐えた志とわざ—



図1 《御所車蒔絵小箆筒》1955年頃
輪島市所蔵

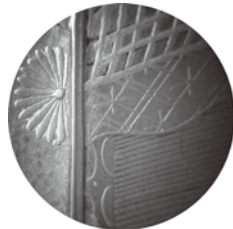


図2 御所車簾部分

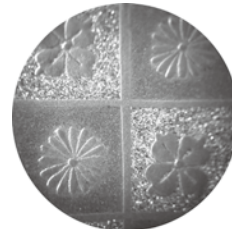


図3 甲面籬部分
梨地に見える部分は
平目粉を用いる

《御所車蒔絵小箆筒》は蒔絵の高貴な輝きを放つ寶石入れです。本作品は1952（昭和27）年から1955（昭和30）にかけて、2〜3年を費やし制作されました。当時、第二次世界大戦中にまして厳しい物資不足に陥り、国内の漆器産業は存続の危機を迎えていました。金粉をふんだんに用いた絢爛な小箆筒の制作は、他に例のない仕事であったといえるでしょう。作者は沖縄県生まれの豊平翠仙（1901〜1969）です。京都の象彦で蒔絵師としての素養を身につけ東京へ渡り、白山松哉やその門人らの注文を受けた戸辺工房に入職しました。蒔絵作家として活躍されている長男の豊平翠香氏を訪ね、本作品の制作経緯についてうかがいました。

終戦後しばらくは、漆を施したコンパクトやライターなど、進駐軍向けの土産物を作って仕事をつないでいました。国内の漆器産地は、こぞって輸出向け製品の生産に着手しましたが、真鍮やカシューなどの代用品、増量剤が混入した粗悪な漆が多く出回るなど、材料不足は深刻でした。本来あるべき漆工芸品を手掛けたという翠仙の思いは日増しに強くなっていたことでしょう。こうした願望を実現させたのが、その志を同じくする美術商、結城麟三との出会いでした。翠仙の腕に惚れ込んだ結城が、技術の粋を集めた漆工芸品で、日本の良いものを海外にアピールしようと持ちかけたのです。十分な材料費が提供され、翠仙は戸辺工房（旧芝西久保巴町）にいたころの職人同士の縁で木地や鋳（かぎ）を依頼し、制作に取り掛かりました。

こうして完成した本作品は、現在まで変わらぬ美しさを保っています。唐戸面造に観音開きの小箆筒。2度に分けて金粉を蒔き付けた金地に、御所車と土坡に籬、秋草の伝統的な文様があしらわれています。高蒔絵を中心に、切金、極付など各種の技法で装飾されており、車輪にはごく薄い鉛板を貼り付けました。御所車の簾を表した細線は精緻さを極めていきます。銀鋳のついた扉を開くと、やはり金地に秋の小花を施した四段の箆筒が現れます。引手の飾りも可憐です。内側や底まです。毛筋ほどの隙も無い、精巧な造りです。翠香氏も作業の一部始終を座って眺め、唐戸面の置平目等を手伝ったといえます。

これらの制作をきっかけに、翠仙と結城の交流は続けられました。理解ある支援者との出会いによって高度な技術が次代に伝えられたことに大いに感銘を受けます。苦難の時代をくぐり抜けた漆芸の一側面をかたる貴重な資料として、守り伝える使命への想いを新たにしました。

（寺尾藍子）

▼平成29年度寄贈作品紹介

平成29年度は次の29件の寄贈がありました。ご寄贈の皆様には厚く感謝申し上げます。

潤塗四君子沈金火鉢／前大峰

匿名希望者より寄贈

松に鳥素彫盆／前大峰

墨画唐獅子掛軸／前大峰

以上木村正明氏寄贈

堆朱四君子香筒／二十代堆朱楊成

熊野二郎氏寄贈

沈黒五聖模様卓上膳／古今菁峰

四君子漆絵吸物椀／竹園自耕

独楽塗食籠／戸寫光孚

八雲塗菓子器／山根漆器店

雪景山水掛軸／上田陽愷

瀧老杉掛軸／島野三秋

以上匿名希望者より

隅切鳥時絵干菓子盆／中村松濤濟

夏草模様香爐盆／吉田清治

乾漆華文菓子器／木村天紅

乾漆盆／木村天紅

富士に桜時絵椀／山崎寛太郎

勾玉螺鈿四方盆／北村久斎

乾漆輪花盆／中川哲哉

額皿「いたどり」／佐藤正巳

以上浦野恒弘氏寄贈

「蝶の楽園」／三谷吾一

白銅浮彫「白夜古城」／蓮田修吾郎

以上三谷吾一氏寄贈

日本橋時絵扇面形飾板／竹園自耕

海を渡る舟漆皿／國田春人

河蟬の凶時絵飾盆／初代西塚朝光

以上谷内芳江氏寄贈

蘭時絵長手盆／竹園自耕

光琳水時絵菓子皿／竹園自耕

以上島峯富雄氏寄贈

和歌沈金色紙箱／長部亘 宇賀壽子

和歌沈金短冊箱／長部亘 宇賀壽子

和歌沈金飾盆／長部亘 宇賀壽子

和歌沈金飾盆／長部亘 宇賀壽子

以上宇賀章氏寄贈

▼平成30年度友の会会員募集のお知らせ

当館では魅力的な特典満載の友の会入会を随時受付けております。

◆会員の特典◆

- 1 招待券が進呈されます。
- 2 展示会の入館料が、会員及び同伴者2名まで団体料金となります。
- 3 相互割引提携館主催の展示会入館料が、

団体割引となります。

4 「友の会だより」「漆芸美術館だより」ほか美術館情報等の提供が受けられます。

*この他にも会員限定の催し、特典があります。

◆会費◆

個人会員 1年1,000円

2年2,000円

家族会員 年額2,000円

代表者と生計を共にする2名以上

賛助会員 年額5,000円

本会発展にご協力いただける個人及び団体

▼職員人事異動

石川県輪島漆芸美術館では、4月1日付で、人事異動がありましたのでお知らせいたします。

事務局長兼総務課長（輪島市派遣）

総務課主査（同 主任）	刀祢有司
総務課主任（同 主事）	萬砂明世
総務課主任（同 主事）	大宮正勝
学芸課主任学芸員（同 学芸員）	高森泰子
学芸課主任学芸員（同 学芸員）	寺尾藍子

・新任職員

学芸員 高津綾乃（奈良大学大学院修了）

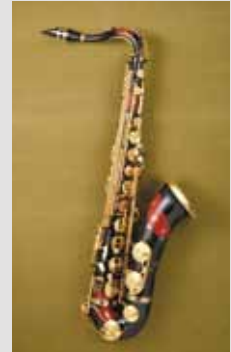
 INFORMATION

RECOMMEND

▼ **世界初 漆塗りサックスの響き**
サックスカルテットJGによるコンサート
『～漆 Japan～』

日 時 6月10日(日) 14:00～15:30
 会 場 エントランスホール *入場無料

漆塗装を施した世界初のサックス、新鋭カルテットJG
 が奏でます！



TOPICS

▼ **友の会主催「わかば茶会」**

期 日 5月25日(金)
 会 場 講義室

▼ **「輪島市民まつり 2018」協賛 特別無料開放**

期 日 6月2日(土)・3日(日)
 期間中は全館無料でご観覧いただけます。

▼ **輪島市いけばな協会 花展**

会 期 6月2日(土)・3日(日)
 会 場 講義室 *入場無料

▼ **漆芸の未来を拓くー生新の時 2018ー 関連事業**

期 日 6月9日(土) *当日無料開放・いずれも申込不要
 ギャラリートーク 13:30～14:30 会場 展示室・講義室
 シンポジウム 14:40～16:30 会場 講義室
 コーディネーター：水上 修 氏 (沖縄県立芸術大学 教授)

▼ **輪島沈金業組合 新作見本展**

会 期 6月23日(土)～24日(日)
 会 場 講義室 *入場無料

▼ **石川勤労者文化協会 写真展**

会 期 7月13日(金)～16日(月・祝)
 会 場 講義室 *入場無料

▼ **夏のうるわし縁日 2018 in 輪島漆芸美術館**

期 日 8月11日(土・祝)
 おいしい出店に懐かしいゲーム等
 わんじまと一緒に楽しいひとときを過ごしましょう。

*内容は予告なく変更することがあります。詳細はHPをご覧ください。

休館日

2018年7月17日(火)～20日(金)



漆芸美術館だより 第83号

2018年5月21日

編集・発行 石川県輪島漆芸美術館
 〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅 11 番地
 TEL. 0768-22-9788 FAX. 0768-22-9789
<http://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>